

## 学科近況

沖縄高専は今年の4月で創立14年目を迎えました。3月には本科生39名と専攻科情報工学コース生1名が無事卒業しました。全員の進路が決定し、就職・進学と新しいステージへ進んでいきました。

4月には本科生52名、専攻科生8名を新たに迎えました。また、今年度もモンゴルより留学生1名を3年次に迎えました。

新入生の皆さんには卒業・修了までの期間に、入学時の夢や希望を実現出来るよう勉強に課外活動に頑張る有意義な高専生活を送ってほしいと思います。今年の5年生の就職希望は31名、進学希望は9名です。また、専攻科2年生1名は就職希望です。5年生・専攻科2年生は進路がほぼ決定しました。まだ未定の学生も早めの進路決定に向けて学科としてもサポートを行っています。最終的には全員が希望進路先へ進めるようにもうひと踏ん張り頑張るほしいと思います。

(学科長：伊波 靖)

## 各学年の話題（1年生）

4月に夢と希望を胸に抱きながら14期生が入学しました。14期生は専門実習入試の入試ミスの対応のため1次選考の合格全員を2次選考において合格させる措置をとったため、新入生の数が例年より10名ほど多く、52名がメディア情報工学科に入学しました。本学科では14期生に対する教育環境を整備するため、演習室におけるパソコンの購入、教室の整備など卒業するまでの5年間をシミュレーションし、入学するまでの期間準備をして参りました。

14期生が入学し無事前学期を終えましたが人数の割に教室が狭い等の問題はありますが、他の学年と同等の教育ができていると感じています。

52名の大所帯でのスタートとなった1年生ですがクラスの雰囲気もよく元気なクラスです。学業面においても、数学などの主要教科では本学科の学生のテストでの平均点が4学科で最高点をとるなど学業面においても頼もしい学生たちです。

高専では5年間の長い学生生活を送りますが、卒業生をみていると、高専での友人が一生の宝物になっています。そういう意味でも、52名の仲間

がいる14期生はある意味幸せな学年かもしれません。高専5年間は長いようであつという間に卒業になります。

14期生の学生には有意義な高専生活を送るよう期待しています。学生たちの成長の一助となるべく教職員一同しっかりサポートしていきませんが、保護者の皆様におかれましても、ご理解ご協力の程、今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

(1年学科担任：正木 忠勝)

## 各学年の話題（2年生）

前期が終わり2年生の半分が終わりました。このメディア情報工学科だよりとともに成績も届いているかと思いますがいかがでしょうか。この時期に勉強の予習・復習の習慣がついているかが3年生以上の成績に大きく影響を与えます。学校に慣れてきて、学生寮の生活もマンネリ化し、なんとなく過ごしていないでしょうか。遊ぶときは全力で遊び、でも確実に勉強の時間を確保するという生活習慣を是非身に付けてもらえればと思います。

LHRでも話しましたが、この時期に卒業後の目標

を具体化することがやる気のもとです。改めて自分が何になりたいのか、夕食の会話にでもご家庭で話し合ってみてください。

(2年学科担任：玉城 龍洋)

## 各学年の話題 (3年生)

3学年は学科別の学級生活がはじまり、卒業まで基本的に同じメンバーで過ごします。お互いの個性を尊重しながら、仲間としての連帯感が持てるようなクラスの雰囲気をつくっていきたくと考えています。クラスのメンバーは平成27年4月にメディア情報工学科に入学した第12期生39名に今年度から3年次に入学したモンゴルからの留学生の合計40名でスタートしました。

4月29日(土)には恒例の体育祭が実施されました。当日の競技だけでなく、役員選出、選手決定、学級旗作成、クラスTシャツ作成等、事前の準備にも精力的に取り組み、クラスのメンバー同士がまた一歩仲良くなれたのではないかと思います。

6月上旬には前学期中間試験、8月上旬には前学期期末試験が実施されました。3年生からは1年生や2年生に比べ専門科目が増えていきます。そのためこれまでと異なった勉強の仕方が必要となりますが、学生たちはそれぞれに工夫して乗り越えられたと思います。

3年生は12月に研修旅行が控えています。今年度の研修旅行は関東に行くことが決まりました。日程、航空便、宿泊先等の概要が概ね決まりました。研修旅行に向けて、服装、頭髪などに関する指導、旅行中に事故や事件に巻き込まれないための安全指導など通常では厳しく行っていない指導も含めて学生への指導が行われます。また旅費以外にもスーツやカバン等、何かと準備に手間や費用がかかると思います。授業期間中には準備が難しい点もありますので夏季休講の時期を利用して用意することをご検討ください。研修旅行についてご理解とご協力よろしくお願いいたします。

3年から4年にかけては、進級要件が厳しい難所と言えます。担任としては卒業やその後の将来への展望を見出し、今年も全員に進級してもらい

たいという思いです。初めての担任であり、至らぬところも多いと思いますが、保護者との連携も重視しながら、学生が主体的に学べるよう、担任として必要な指導・支援ができればと考えています。今後ともよろしくおねがいします。

(3年学科担任：金城 篤史)



体育祭での記念撮影 (3年メディア)

## 各学年の話題 (4年生)

4学年の時間割は3学年までと比べて空き時間が増えます。このことは、4学年の授業科目の多くが大学と同じ「単位」の扱いとなり、授業時間と同程度の時間、自己学習(予習や復習、課題等)に取り組んでいることが前提としてあるからです。そのため、4学年になると課題や復習が多くなり、授業の合間の空き時間を計画的に使って取り組んでいくことになります。

学生との面談では、空き時間で「検定試験合格に向けて勉強したい」、「苦手な〇〇の課題をしたい」といった前向きな気持ちが聞かれました。時間もたっぷりありますので、課題提出締め切り直前にあわてて始めるのではなく、じっくり取り組んでもらいたいと期待しています。

4学年の夏休みは全員がインターンシップに行きます。5月の「インターンシップ先の希望調査」から始まり、「履歴書の作成」や「実習先とのやりとり」、「マナー講座」などを経て、いよいよ実習本番となります。今年度のインターンシップも県内外の多くの企業や団体の皆様にご協力をいただくことになりました。学生には心も体も準備を整えて実習に臨み、それぞれが多くの経験や気づきを持ち帰ってもらいたいと思います。また、インタ

ーンシップにあたり、ご家庭にもご協力いただいたこと、これからご協力いただくことがあると思います。全員無事に実習が終わるまで気が抜けませんが、引き続き学生の支援をよろしく願いたします。

(4年学科担任：太田 佐栄子)

## 各学年の話題 (5年生)

### 学級状況

高専に入学してあっという間に5年目になりました。5年生は沖縄高専生活の最後の学年となり、卒業要件を満たすための勉強や就職や進学準備に慌ただしい時期を迎えています。また、これまで1年生から現在まで学んだ知識や技術を応用しながら卒業研究への取り込みも始まりました。5年生が卒業するためには必要な単位をすべて修得しなければなりません。卒業まで気を抜かず、楽しい学校生活を送ってほしいと思います。

### 就職・進学について

8月18日現在では卒業見込者40名中、進学希望9名(22.5%)です。その内、4名が専攻科に進学することになり、4名が長岡技科大情報経営システム工学、千葉大学工学部情報画像学科、豊橋技術科学大学情報・知能工学課程、電気通信大学情報理工学域I類に合格しました。残りの1名は入試に向けて頑張っています。

就職希望者は31名(77.5%)で、28名(90%)が採用内定を貰っています。

5年生の進路決定にあたり、配属された研究室の指導教員を中心に、担任や本校キャリアアドバイザーがサポートしています。いずれにしても、学生自身が「行動」をしなければ、内々定や合格を手にはできません。あきらめないこと、早めに準備をすることが自分の希望する進路決定に繋がります。

卒業まで後半年があります。自分のできることを精一杯してください。保護者には卒業までの間、家庭においても学生のサポートをお願いいたします。

(5年担任：バイティガ ザカリ)

## 各学年の話題 (専攻科)

専攻科は高専本科5年間の専門基礎教育の上に、さらに2年間のより高度な専門教育を行うことで、知識を融合する能力を持った実践的技術者を育成することを目標としています。

沖縄高専の専攻科は平成26年度に「特例適用専攻科」として認定され、新たな学位授与審査方式が適用されるようになりました。平成26年度入学生からは特例適用専攻科の審査方式で学位授与審査が行われています。大学改革支援・学位授与機構に必要書類(単位修得証明書、学修総まとめ科目履修計画書等)を申請・提出することによって審査に合格すると、「学士(工学)」の学位が授与されます。これまで、受審した全員が学士(工学)を授与されています。

情報工学コースでは今年度は1名の受審となりますが、10月の申請に向けて学修総まとめ科目履修計画書等の必要な書類を作成しています。学士の授与に向けて指導教員を中心にコースでサポートを行っていきます。

(学科長：伊波 靖)

## 在外研究の近況

この4月より高専機構の在外研究員として英国マンチェスター大学社会人類学科グラナダ映像人類学センターに滞在させていただいています。現在はマンチェスター大学およびロンドン芸術大学と共同で取り組んでいる沖縄の音環境を題材にした映画制作のプロジェクトにおいて日本語版を制作する業務を担当しています。映画はほどなく完成し、9月には沖縄でも上映される予定で、今まさに完成期限に追われています。言語や習慣の異なる人々との共同作業は大変ですが、高専での日常教務では得難い経験をさせていただいています。

古くからの中心市街地の範囲内にアパートを借りることができ、日々、地域の歴史を感じながら生活しています。少しずつ生活に慣れ、英国と日本国の違いや、それぞれの良さに目を向ける余裕ができました。不在中は多くの関係者にご迷惑をおかけしますが、来年3月の帰任までにできる

だけ多くのことを吸収し、学校や地域のために活かしたいと考えています。

(2017年8月9日 西村 篤)



マンチェスター大学の正門

## 編集後記

学科だよりは毎年、前後期の間中間試験の後に発行していましたが、前期の終わりの発行となりました。毎号、楽しみにしておられる保護者のみなさんにはお待たせすることになりました。

本号も1年生から専攻科生まで各学年毎の話題を各学年の担任の先生に書いて頂きました。また、4月から在外研究研究員としてイギリスのマンチェスター大学に派遣されている西村先生からも寄稿していただきました。

学科便りはメディア情報工学科の様子を保護者にお届けする学校と保護者を繋ぐひとつの手段として発行しています。教員と保護者が一丸となって学生ひとりひとりに対するよりよい教育を通して、社会に貢献できる人材の育成を実現したいと考えております。そのために学科教員一丸となって、多様な教育的課題に向き合っていきたいと思っております。

学科だよりに関するご意見ご要望がございましたら、是非下記連絡先までお知らせください。また、学校に対してお持ちの疑問・要望、また他の保護者の方々にも知って欲しいことなどを投書して下さることも大歓迎ですので、是非お気軽にお便りをお寄せ下さい。

編集担当者連絡先：

〒905-2192 沖縄県名護市字辺野古 905

沖縄工業高等専門学校メディア情報工学科 正木 忠勝

TEL 0980-55-4003 (代) FAX 0980-55-4012 (代)